

Express5800シリーズ / iStorage NSシリーズ 冷却ファンが高速回転する事象について

日頃より、弊社製品をご愛用いただき、厚く御礼申し上げます。

Express5800シリーズおよびiStorage NSシリーズの一部の機種において、装置内蔵の冷却ファンが継続的に高速回転する事象が確認されました。以下に本事象と対処方法を案内いたします。ご確認のうえ、「3. 対処方法」に従いご対応ください。

— 記 —

1. 対象装置

以下のCPUを搭載した機種が対象となります。なお、使用OSに対する依存性はありません。

[対象機種]

Express5800/R120j-1M (2nd-Gen)
Express5800/R120j-2M (2nd-Gen)
Express5800/R110k-1M (2nd-Gen)
Express5800/T110k-M (2nd-Gen)
iStorage NS500Rk (2nd-Gen)
iStorage NS300Rk (2nd-Gen)

[対象CPU]

N8101-1880 CPUボード(8C/2.10GHz/Bronze 3508U)
N8101-1882 CPUボード(8C/2.60GHz/Silver 4509Y)
N8101-1883 CPUボード(12C/2.40GHz/Silver 4510)
iStorage NS500Rk(2nd-Gen)標準搭載CPU
iStorage NS300Rk(2nd-Gen)標準搭載CPU

2. 発生事象

システムユーティリティ内の以下の設定を工場出荷時の設定(※1)から変更すると、装置内の冷却ファンが継続的に高速回転する場合があります。

(※1) 工場出荷時の設定

System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) >

Power and Performance Options

・Minimum Processor Idle Power Core C-State: No C-States
・Minimum Processor Idle Power Package C-State: No Package State

詳細はメンテナンスガイド(共通編)を参照してください。

<https://www.support.nec.co.jp/Download.aspx?file=10.207.02-004.09.pdf&id=3170102962>

ただし、Workload Profile(※2)を変更すると、Core C-StateおよびPackage C-Stateが変更されることがあります。

(※2) Workload Profile

System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Workload Profile

詳細はメンテナンスガイド(共通編)の

「ワークロードプロファイルの設定時の依存オプションについて」を参照してください。

なお、冷却ファンが高速回転することで騒音が通常より大きくなりますが、冷却性能および装置動作への影響はありません。

3. 対処方法

BIOS/Platform Configuration (RBSU) のCore C-StateおよびPackage C-Stateを確認し、Enableとなっている場合は以下の手順で再設定を実施してください。

注)本手順はサーバの停止、再起動を伴います。実施前に業務への影響をご確認のうえ、必要に応じてデータのバックアップを取得してください。

1. サーバの電源をオン、または再起動します。
2. POST中に<F9>キーを押下し、システムユーティリティを起動します。
3. システムユーティリティーメニューで System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Workload Profile に移動し、Custom に設定します。
補足) Workload Profileの設定値によっては手順5/6の変更ができない場合があるため、Customを選択してください。
4. Power and Performance Options メニューに移動します。
5. Minimum Processor Idle Power Core C-State を選択し、No C-Statesを設定します。
6. Minimum Processor Idle Power Package C-State を選択し、No Package Stateを設定します。
7. <F10>キーを押下し、設定を保存します。
8. <ESC>キーを繰り返し押し、システムユーティリティを終了します。
9. サーバの再起動を促すプロンプトが表示されたら、「Yes」を選択します。

以上